

雑録

歴史分野授業パッケージ作成の経過報告―日本史探究での活用を目指して―

熊本県博物館ネットワークセンター

後藤 鮎子

【キーワード】日本史探究、博字連携、授業パッケージ

はじめに

平成三十年告示の『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』(以下、『学習指導要領』)において、高等学校地理歴史科の科目構成や内容は大きく変わり、新設された「日本史探究」は、必修科目である「歴史総合」の学習の成果を踏まえた発展的な内容となっている。また、主題や問いを中心に構成する学習の展開や、資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習から、多面的・多角的な考察や、それを表現する学習展開が求められている。^①これにより、「日本史探究」の授業では、資料活用をとおして「どのように学ぶか」がポイントの一つとなるため、指導者はより専門的な力が求められることになったわけである。しかし、筆者自身が過去、高等学校で日本史の授業を行った経験から、授業内容に適した資料を探し、読み込んだ上で授業に活用し、生徒の考察力や表現力を評価することは非常にハードルが高いと感じる。そのような課題に、博物館が有する資料やその調査研究方法が少なからず貢献できるのではないかと考えた。『学習指導要領』においても、「年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、地域の文化遺産、博物館や公文書館、その他の資料館などを調査・見学したりするなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること」^②という博物館等との連携に関する記述がみられる。このことから、博物館が「日本史探究」の授業に貢献できる絶好の機会と捉えた。

さらに、二〇二三年(令和五年)四月に改正された博物館法では、学校を含む多様な主体との連携・協力により地域の活力の向上に取り組むことを努力義務と

しており、^③博物館にとっても学校との連携はこれまで以上に推進していききたいところである。熊本県博物館ネットワークセンター(以下、センター)にとっても、学校との連携は、収蔵している資料の利活用促進や、これまでに行ってきた調査・研究内容の再活用を図れる機会となる。

以上のことから、センターの収蔵資料を活用した授業をパッケージ化し、県内のどの高等学校でも授業ができるフットワークの軽い博物館を目指し、博物館が有する貴重な収蔵資料の利活用促進を図ることを目的として「歴史分野授業パッケージ」を作成することになった。現段階で授業パッケージ化の途中ではあるが、その経過報告を行う。

第一章 授業パッケージ内容の検討

授業パッケージ化において最も重要なことは、授業者である日本史の教員が求めていることをパッケージ内容に反映させることである。そのため、作成の段階から学校と博物館が連携することが重要であり、主題や問いを中心に構成する授業について現時点で対応可能な協力校を探す必要がある。そこで、二〇二三年度(令和五年度)より熊本県で初めて日本史のスーパーティーチャー(指導教諭)となられた奥田和秀氏に協力を依頼することにした。奥田氏は熊本県立宇土中学校・宇土高等学校に勤務され、日本史の全ての授業で教員と生徒双方が問いを立てるといふ取り組みをされており、生徒に探究の視点が醸成されている。奥田氏の協力が得られたため、本パッケージの作成を、奥田和秀氏の助言・指導をいただきながら、センター歴史分野職員(以下、センター職員)が行うことになった。表1の計画に従って、順次授業パッケージの完成を目指し、現段階で、表1の実

実践授業までを終えたところである。本章では、実践授業までに行った授業パッケージ案作成過程について記すこととしたい。

第一節 テーマ設定

最初に、授業パッケージを県内すべての高校で活用可能にするため、生徒の日常生活に結びつけやすいテーマ、もしくは熊本県に関連した親しみやすいテーマを設定し、それに合った資料を選定することにした。可能な限り現物の資料に触れることができるようにし、そこから生徒の「驚きと発見」を引き出せるものにする必要があるという奥田氏の助言をもとにテーマを設定することになった。センターに所蔵している資料は近世以降のものが多数を占めるため、テーマも近世以降のものとなる。つまり、テーマは、生徒が親しみやすい内容で、近世以降の資料を用いることができるものにならなければならない。以上を考慮した結果、江戸時代の貨幣に関するものを取り扱うことにした。生徒にとって、お金は身近なものであり、生活に結びつけやすい内容である。『学習指導要領』に、「産業の発達、飢饉や一揆の発生、(中略)庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解すること」⁽⁴⁾とあり、古文書の中のお金に関する記述から、貨幣と「近世の庶民の生活」の関係も考察できると考え、本授業パッケージのテーマを「古文書に書かれたモノとお金」とした。

第二節 資料の選定

使用する資料については、センターが収蔵している江戸時代の貨幣と江戸時代に記された古文書を候補とした。(表2、表3)江戸時代の熊本でどのような物が流通していたか、どのような貨幣が使用されていたかを読みとることで、生徒は江戸時代の農村で生活する人々の暮らしへの既存イメージとの共通点や相違点に気づき、「驚きと発見」に繋げられると考える。使用予定の古文書は、『高森町

瀬井家資料』⁽⁵⁾のもので、阿蘇郡高森町尾下村の農家に生まれた甲斐有雄が記したものである。資料の内容は、家や村に関する出納が主で、品目と金額が記載されている。(図1)ただし、今回使用する資料には、記載されている品目やお金にその地域性が見られるが、この地域性も生徒の「驚きと発見」に繋げられる可能性があるため、本資料を使用資料の候補とした。

第三節 指導案及び授業プリント

指導案及び授業プリントについては、奥田氏主導で作成いただいた。(図2、図3)指導案のながれは、県内のどの高校でも実施可能なものにするため、古文書から読みとったことや、江戸時代の貨幣に実際に触れたことで生じた「驚きと発見」をもとに、生徒が各自で問いを設定するというシンプルなものとした。古文書の解説については、限られた数の実物資料を用いる点と古文書読解の難しさという点から、グループワークの形式とした。グループワーク後、気づきや疑問をもとに、生徒たちは個々で問いを設定し全体で共有を行う。生徒たちはICTを活用した学習に精通しているため、タブレット端末を使って設定した問いをシートに入力し、それを電子黒板で共有する。⁽⁶⁾授業者は、生徒が設定した問いを数点ピックアップし、生徒同士や授業者、博物館職員との対話をとおして思考を深める形式とする。授業プリントは、古文書の解説や問いの設定の際のメモとしても使用できるようになっており、また、授業一時間の中での生徒の変化を見られるよう工夫されている。

しかし、想定されるのが、多くの授業者と生徒が古文書を使用することに対して敷居の高さを感じていることである。授業パッケージの活用促進を図るためには、それを払拭しなければならない。生徒は、古文書の中でお金と品目に関わる語句を探してメモをする作業を行うわけだが、くずし字を見たことがない生徒にとっては時間がかかる作業になるだろう。その課題に対して、グループワーク

の際に、古文書に頻出する単位や数字、年月日のくずし字表を作成し、参考資料として配付することで対応しようと考えた。これにより、古文書の読みやすさは各段に上がると考えられる。また、古文書に記載されている頻出品目を表にしたものを授業者に事前に渡し、センター職員と共有できるようにした。

第二章 実践授業と検証

授業パッケージ化に向けて、前章で述べた実物資料や指導案、授業プリント、参考資料の内容を検証するため実践授業を行った。授業は二〇二三年十一月に熊本県立宇土中学校・宇土高等学校の高校三年日本史Bのクラス（受講者二六名）で実施した。^⑥古文書を取り扱うため、「古文書を取り扱う際は鉛筆を使用する」「古文書に触る前は手を洗う」など、取り扱いの注意点について奥田氏に事前指導をしていただいた。本章では、授業での生徒の様子や、授業で生徒が立てた問い、授業後のアンケート結果等について記すことにする。

第一節 授業の様子

授業は、奥田氏主導で行ったが、展開のグループワークでは、センター職員三名が生徒たちの個別の疑問に対応した。導入部分では、江戸時代の農村に暮らす人々の生活に対するイメージの確認を行った。（図4）「貧しい」「質素」「過酷な労働」という言葉を挙げる生徒が多く、理由を尋ねると、『年貢などの重い負担』や『一揆』『飢饉』という教科書や今まで習った中での言葉が真っ先に思い浮かんだから』という意見が挙げられた。展開部分では、五、六人の五グループ編成で、それぞれのグループに異なる古文書とその複写資料を提示した。

予想していたとおり、くずし字に戸惑う生徒が多く、最初はセンター職員の手ポートなどは難しいようであった。（図5）一〇分ほどすると、少しずつ慣れてきた生徒たちは、解説できる品目をピックアップできるようになっていき、（図6）「読めてくると楽しい」「こういう物も江戸時代にあったんだ」という声

がうようになった。解説できた品目は、奥田氏が電子黒板で共有し、他班が解説したのもわかるようにされていた。（図7）解説開始から一五分経った頃、貨幣を各グループに提示した。しかし、解説に集中する生徒が多く、貨幣に触れる時間が十分に持てない生徒も見られた。その後、ある程度品目が挙がった段階で、解説したことや気づいたことから問い立てを行うよう奥田氏から指示があった。生徒は、日頃から問い立てに慣れているため、全員が問いを完成させた。（図8）問いの中には、「様々なものを買えるお金はどこから手に入れたのか」「たくさん金のお金を買えるお金はあるのか」など、古文書に記載のあった多くの品目とお金の関係について注目したものが多かった。また、「値段の相場は誰がどのような基準で決めていたのか」のように、一つの古文書を通して読んだことで、記載内容の変化に着目している生徒もいた。

まとめでは、問いをピックアップして、センター職員と対話することで思考を深める予定であったが、時間が十分にとれず、生徒の問いを二点ほど挙げた後、その疑問に答えるという形式になった。古文書の解説に時間がかかることは予想していたが、展開の時間とまとめの時間のバランスを考え、生徒とセンター職員との対話ができるよう時間配分等の修正が必要である。

第二節 アンケート結果

授業実施後、参加生徒にアンケートを実施した。^⑦（図9）アンケート結果から、回答した全ての生徒が古文書に触れるのは初めてで、江戸時代の貨幣に触れるのもほとんどの生徒が初めてだったことがわかる。また、一人を除いて、古文書や貨幣を使用する授業について「とても難しい」「やや難しい」と感じ、難しいと感じた点については、多くが「古文書から品目を読みとること」だった。これについては、実物資料の中で、貨幣に触れることよりも古文書解説に集中していた生徒が多く、その解説の難しさが印象に残っているということが考えられる。しかし、アンケートへの回答からもわかる通り、センター職員がサポートする

ことで、生徒は古文書を読みやすくなり、かつ、センター職員とのコミュニケーションから得られたものも多くあったようである。^⑧このことから、作成する歴史分野の授業パッケージ内容に、授業中におけるセンター職員のサポートを含むことは重要な要素であることがわかった。

また、実物資料を授業で活用したことに肯定的な意見が多く、江戸時代の人々の生活を身近に感じ、歴史への関心をより一層高めた生徒も見られる。^⑨古文書の紙の薄さや貨幣の大きさ、重さに着目した生徒もいたため、実物資料を用いることが、生徒の着眼点の幅を広げることに繋がると考えられる。

さらに、注目したいのが、江戸時代の農村に暮らす人々の生活に対するイメージの授業後の変化である。⁽¹⁰⁾授業前は「貧しい」「過酷」「質素」という言葉が並んでいたが、一括りでは表現できない多様な生活が江戸時代の農村にもあったということを資料から生徒が読みとり、それをアンケート上で表現できている。このことから、実物資料に触れる前に既存のイメージを意識させ、資料に触れた後に、イメージとの違いまたは共通点を認識させたことが、生徒の「驚きと発見」を引き出す要素になったと考える。

第三章 パッケージ内容の確定に向けて

実践授業の検証やアンケート結果の分析から、今後、授業パッケージ内容を確定させることになる。確定までに、授業内容の修正や使用資料の再検討が必要であるが、内容を収納するもの、つまり収納パッケージも必要である。詳細は現在検討中であるが、修正の方向性と収納パッケージについても本章で述べたい。

第一節 修正の方向性と授業パッケージ内容物

表4に記した「古文書」「貨幣」「指導案」「授業プリント」「単位及びくずし字表」「品目表(授業者のみ)」は実践授業でも十分活用することができたため、パッケージの内容物として問題ないと考えている。ただし、前章で述べたとおり、

実践授業から、資料解説に時間を要するために、貨幣を見る時間やセンター職員との対話の時間の確保が難しいということが明らかになり、また、古文書の種類が多く、その分サポートに入る授業者とセンター職員の負担が大きかったため、**古文書については種類を減らすもしくは、変更することを検討している。**貨幣については、古文書解説に集中してしまったことから、全体に回覧するための貨幣を生徒に見せることができなかった点、貨幣に関する問いを立てた生徒がいなかった点等の反省点が挙げられるため、貨幣を提示するタイミングと提示方法の再検討が必要である。

第二節 収納パッケージ

センターでは二〇一四年度(平成二六年度)から学校用移動展示パッケージを作成し運用しているが、⁽¹¹⁾これらのパッケージは一定期間学校に展示をすることを前提に内容物と収納パッケージが作成されている。しかし、今回の授業パッケージは、古文書や貨幣などの実物資料を使用するという特性上、授業前後にセンター職員が運搬し、授業に職員も参加することを想定している。古文書については、保管の観点からも、センターで現在使用中の中性紙箱を使用する予定であるが、貨幣については提示する数も多いため、運搬から生徒への提示までを一括して行えるようにすることが望ましい。これらを考慮し、尚且つ活用しやすいものにするため、次の三点を重要項目として、収納パッケージの確定を行う。

- 一、軽量で運搬しやすいものであること
- 二、耐久性の高いもの
- 三、全体提示で使用でき、且つ分割して各グループでも提示できるもの

特に、グループワークで資料を使用するため、三については必須項目である。各グループに提示する貨幣を一まとめにしたキットが、一つの箱の中に入っているというイメージである。グループワーク後には、生徒が元通りに一つの箱に収納できるよう検討を進めていく。

おわりに

主題や問いを中心に構成する授業のパッケージ化は、生徒が立てる問いも、そこから生まれる対話も、各授業で全く異なるものになることが予想されるため、常に難しさを感じている。しかし、高校生が立てる問いや思考を深めていく過程など、博物館にとって新たな視点が加わる利点もあるのではないだろうか。『学習指導要領』で求められている探究について、その入口となるような授業パッケージを作ることで博字連携を促進する可能性があることを意識しながら、今後の作成作業と、完成後の活用促進に取り組みたい。

謝辞

本パッケージ作成にあたり、助言、指導をいただき、指導案・授業プリントを提供いただいた奥田和秀氏に感謝申し上げます。また、実践授業をさせていただいた熊本県立宇土中学校・宇土高等学校の皆様にも感謝申し上げます。

註

- (1) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』
- (2) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』六八頁
- (3) 博物館法第三条「3 博物館は第一項各号に掲げる事業の成果を活用するとともに、地方公共団体、学校、社会教育施設その他の関係機関及び民間団体と相互に連携を図りながら協力し(中略)もって地域の活力の向上に寄与するよう努めるものとする。」とある。(令和五年四月改正)
- (4) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』六六頁
- (5) 授業プリントは、タブレット端末を使用しない授業でも対応可能なように構成されている。
- (6) 平成三十年告示の『学習指導要領』は、高等学校では二〇二二年度(令和

四年度)入学者より年次進行で実施されており、宇土高校の三年生は、日本史探究ではなく、日本史Bを履修している。しかし、奥田氏は探究の視点を持った授業を日常的に実施されており、今回の実践授業でも日本史探究の視点を持って授業を行った。

(7) アンケートは実践授業の次の日本史の時間に実施したため、授業参加者二六名に対し、回答者は二二名であった。

(8) 図9の質問6への回答参照

(9) 図9の質問5及び7への回答参照

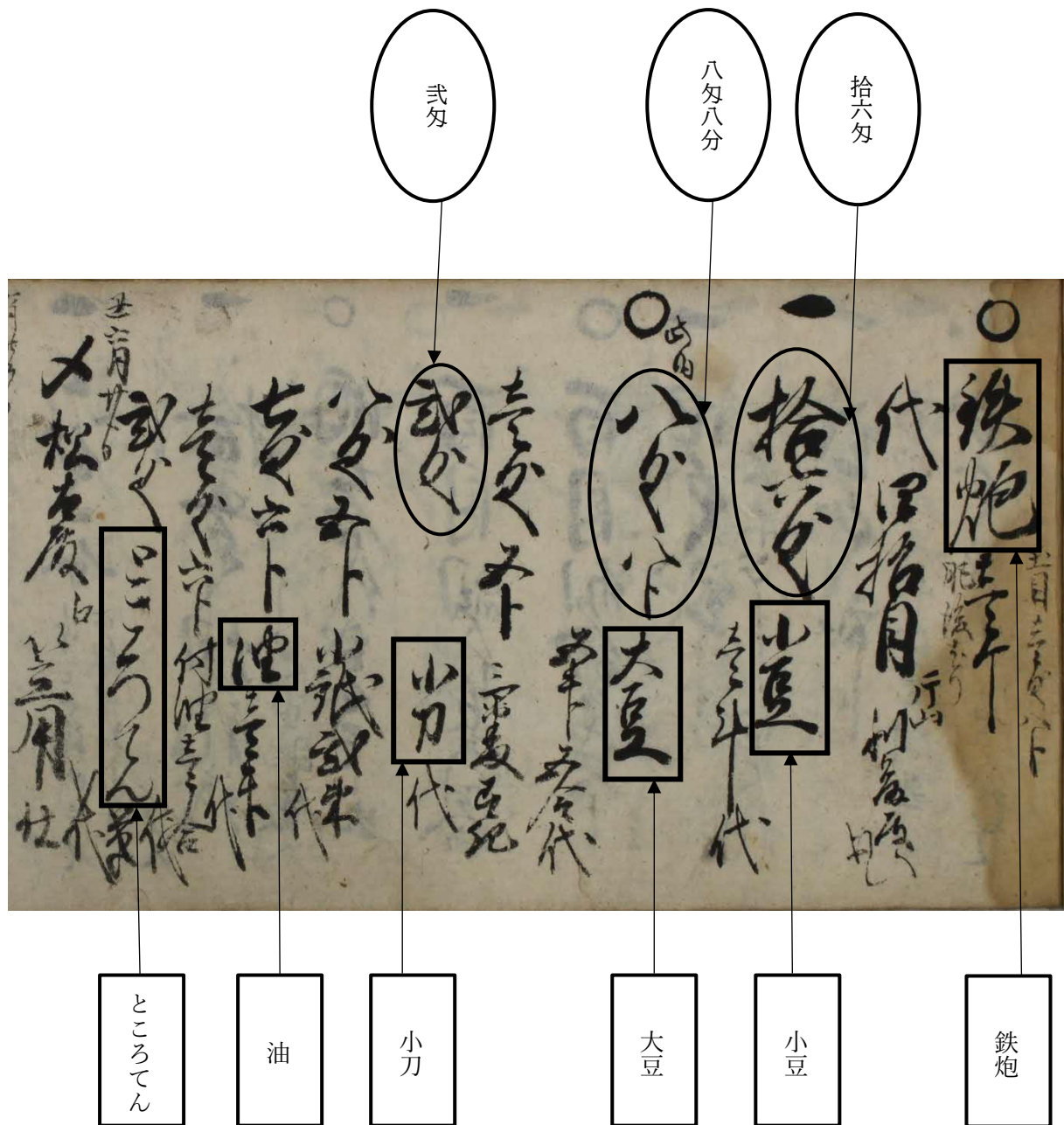
(10) 図9の質問7への回答参照

(11) 二〇一四年度(平成二六年度)から、小学校向けに二テーマ二〇個、中学校向けに四テーマ三〇個、高等学校向けに五テーマ十六個を作成し、希望校へ配置し運用している。これらのテーマ全てが自然系分野のものである。

図表

- 図1 授業。パッケージ使用予定資料の一部（高森町瀬井家資料『大福諸銭出入帳』（抜粋）を筆者が加工。）
- 図2 授業。パッケージ使用予定の指導案（奥田和秀氏提供）
- 図3 授業。パッケージ使用予定の授業プリント（奥田和秀氏提供）
- 図4 実践授業前の江戸時代の庶民の生活に対する生徒のイメージ（生徒の回答から抜粋）
- 図5 授業の様子（古文書解読でのセンター職員のリポート）
- 図6 授業の様子（解読した項目をタブレットに入力）
- 図7 生徒が古文書から読みとったもの（奥田氏提供、授業中に電子黒板で共有したものを元に筆者が編集。ただし、単語は生徒が読みとったものをそのまま記載）
- 図8 生徒が立てた問い（奥田氏提供、生徒の回答から抜粋）
- 図9 実践授業実施後アンケート結果（質問1から4は筆者がグラフに編集、質問5から7は生徒の回答から抜粋）
- 表1 歴史分野授業パッケージ作成計画（筆者作成）
- 表2 授業。パッケージに使用する実物資料候補（貨幣）（筆者作成）
- 表3 授業。パッケージに使用する実物資料候補（古文書）（筆者作成）
- 表4 実践授業で使用したパッケージ内容（筆者作成）

図1 授業パッケージ使用予定資料の一部



※熊本県博物館ネットワークセンター所蔵高森町瀬井家資料『大福諸錢出入帳』（抜粋）を加工。生徒が解読できる可能性のある語句を抽出して記している。資料中の ○ は金額、□ は品目。

図2 授業パッケージ使用予定の指導案(奥田和秀氏提供)

1 授業テーマ 「古文書に書かれたモノとお金」

2 授業の目標

教科書で学んだ江戸時代の庶民の暮らしについて、博物館に所蔵されている古文書等を読み解きながら、既存のイメージとの共通点や相違点に気づき、驚きや発見を通して、地域の歴史を再確認するとともに、思考力や資料分析力を高める。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古文書を読み取り、江戸時代の庶民の暮らしぶりをモノとお金の視点から理解している。	江戸時代の庶民の暮らしについて、古文書等から読み取れる情報をもとに、多面的・多角的に考察し、表現している。	古文書解読や実物に触れたことで生じた驚きや発見から課題を見だし、主体的に追究しようとしている。

4 授業の流れ

時間	学習内容	問いのポイントや指導上の留意点	学習活動○及び博物館職員の支援◎
導入 5分	○江戸時代の暮らしについて既存のイメージの共有と授業のねらいの説明	○江戸時代の庶民の暮らしについて、どのようなイメージを持っているか。 ○江戸時代の庶民の日常にモノとお金はどう溶け込んでいたのか。	○ワークシートに記入 ○タブレットでシートに入力
	問い 江戸時代の熊本ではどのようなモノが流通し、どのようなお金がどのように使われたのだろうか？		
展開 30分	○古文書から読み取ろう [グループワーク] ○貨幣の実物に触れる ○問いをつくる	○古文書からの気づき ・どのようなモノが書かれているか。 ・どのようなお金が使われているか。 ・なぜこのような文書を作成したのか。 ・誰が作成したのか。 ○江戸時代の貨幣に触れ、実際に使用されていたお金を体感する。 ○古文書解読や実物(貨幣)に触れたことで生じた驚きや発見から、各自で問いをつくる。	◎古文書に触れる際の注意点 ◎古文書の中の日付や品目が記載されている場所の説明 ○ワークシートに記入 ◎実物の貨幣の提示と解説 ◎個別の疑問に対応 ○ワークシートに記入 ○タブレットでシートに入力
まとめ 15分	○問いの共有とふり返り	○問いをいくつかピックアップし、生徒同士や授業者、博物館職員が対話を通して思考を深める。	◎問いについての解説や、課題解決のために必要な調査方法や資料等のアドバイス

図3 授業パッケージ使用予定の授業プリント(奥田和秀氏提供)

授業ワークシート

年 組 号 氏名

1. 江戸時代の庶民（農民）の暮らしについてどのようなイメージをもっていますか？（個人）

※タブレットでシートに入力

2. 古文書を解読してみよう。

班で協力して古文書に書かれていることについて、次の点を読み取ってみよう。（班）

モノとお金 どんな物品がいくらかと記載されているか？	その他気づき 気づいたこと・発見したこと・疑問に思ったこと

3. 読み取った内容から、各人で「問い」をつくってみよう。（個人）

※タブレットでシートに入力

4. 問いを共有しよう。（個人）

A	B	C
問い	問い	問い
メモ	メモ	メモ

※リフレクション

学習前と学習後と比べて、あなたの考えがどのように変わったか、具体例を1つ挙げて述べてください。

.....

.....

.....

.....

図4 実践授業前の江戸時代の庶民の生活に対する生徒のイメージ(抜粋)

貧しくて、土地や職業など細かいことまで制限があり厳しかった
貧しい暮らしで、周りとの助け合いながら過ごしていた。
農業だけに精通していてそこまで教養はなく、質素な暮らしをしていた。主に自給自足の生活。知恵はいっぱいありそう。
村の団結力が強い。農業や祭祀を村全体で担っていたイメージ。
過酷な労働を強いられていた
貧しい生活はしていると思うが、周りの人々と協力しながら、安定した生活が送れていたのではないかと思う。食べ物があまりなく苦しめられていたと思う。
多くの人が借金を抱えていた。自由を求めて娯楽に勤しむ人が多かった。飲酒率が高い。
自由があまりない同じような日の繰り返し。必要最低限の暮らし。

図5 授業の様子(古文書解読でのセンター職員のサポート)



図6 授業の様子(解読した項目をタブレットに入力)



図7 生徒が古文書から読みとったもの

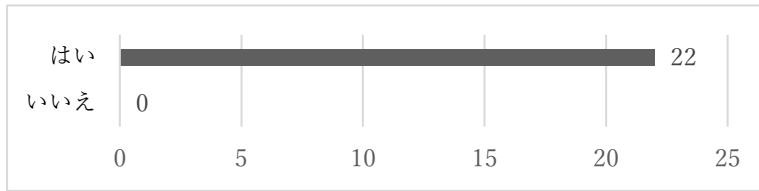
1班		2班		3班			4班		5班	
八分 玉子	包丁	小豆	ごぼう 種	八分	八月 十九日	昆布	大豆八 分八分	とう きび	色紙 一分	菊丹
一匁 酒	お菓子	薪木	種子 四俵	酒代	書物 二冊	漆	毛ぬぎ	薬	小筆	厚紙
一匁 酒魚代	秋刀魚	鳥の 糞	酒	とう きび	ぶり	葛根湯	鉄砲	炭焼	唐の土	ミヨウ バン
唐芋 二分	まん じゅう	巻じく	死牛代	たび	とぎ り	順血 とう	昆布	酒	光明朱	藤黄
富代 五分		人参		三寸釘	串柿		種子	岡札式 百目	石黄色	巻じく
				菓子一 匁九分	鬢付 け油				黄土	

図8 生徒が立てた問い(抜粋)

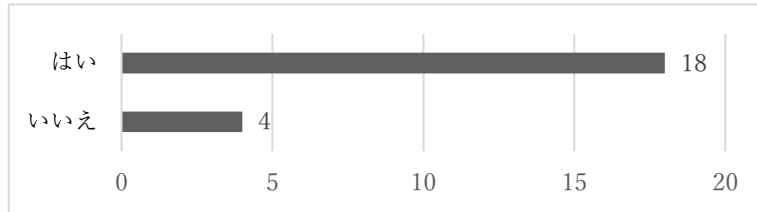
様々なものを買えるお金はどこから手に入れたのか
たくさんの食べ物を買えるお金はあるのか
古文書になぜこんなに細かく値段の記載がされていたのか
食べ物を調理する機会が増えたのか 食べる量は増えたのか
酒の値段を頻繁に変えて不満はなかったのか。
値段の相場は誰がどのような基準で決めていたのか？
薬と酒の取引が多いことに関係性はあるのか。ここまで詳細に記帳する目的は何だったのか。
なぜ鉄砲を持っていたのか。
まんじゅうやお菓子が食べれるほど裕福だったのか
絵の具は浮世絵に使われていたのではないか 貝殻のような絵は何を表していたのか 農家の家になぜ絵の具が必要だったのか

図9 実践授業実施後アンケート結果(生徒回答)

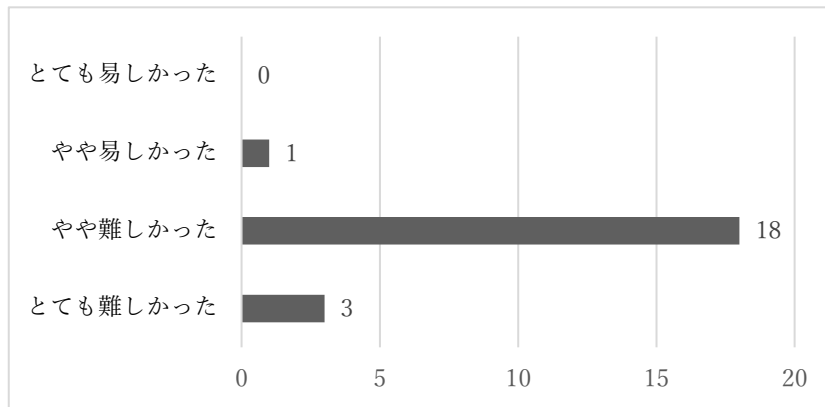
1 古文書を実際に触るのは初めてでしたか。



2 江戸時代の貨幣に触るのは初めてでしたか。

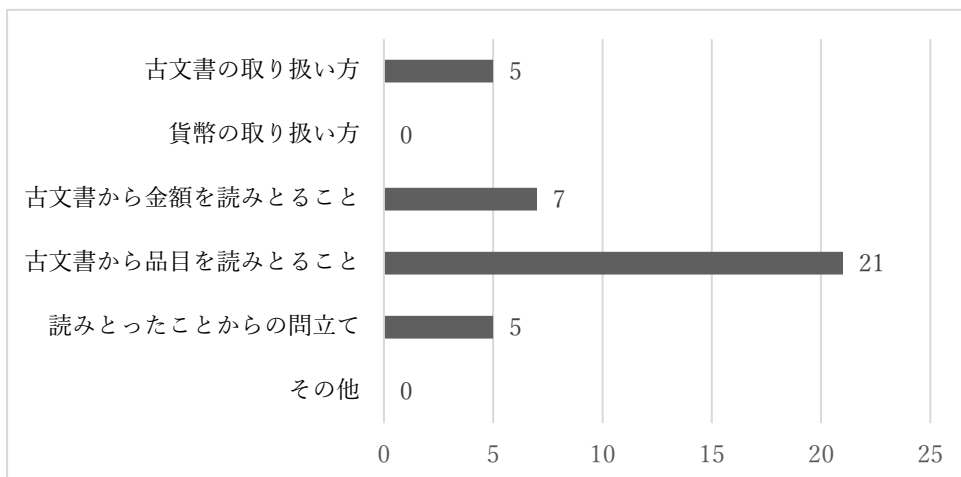


3 古文書や貨幣を授業中に使用する授業は難しかったですか。



4 3の質問で「とても難しかった」「やや難しかった」と答えた人のみ答えて下さい。

古文書や貨幣を授業中に使用する授業で難しく感じたことは何ですか。(複数回答可)



5 今回は古文書や貨幣などの実物資料を使用しましたが、それらを使った授業を受けた感想を自由に書いてください。

(抜粋)

古文書を実際に触れるのは初めての機会です。貴重な体験ができました。教科書の固定観念に捉われない、郷里に根差した歴史を知り、関心が一層高まりました。また、共通テストの古文書読解の勉強になりました。

江戸時代など昔のことは授業で教わっても絵空事のように感じていましたが、実物を見たりさわったりして江戸時代を実感しました。

実際に古文書に触って自分の目で見るのは初めてだったので、とても面白かった。江戸時代にタイムスリップというか、生活に触れることができたと感じた。もっと長い時間読みたいと思ったので、2、3時間くらいの授業にしてほしい。

複写品と比べて実物資料での授業は、当時の人々の暮らしに没入している感覚が強まって、授業への意欲が高まりました。

実物を見ることで当時の人たちの暮らしが、教科書を読むだけよりも理解することができました。古文書から読みとったことには、何故これが書かれているだろうと思うものも沢山あって、楽しかったです。

古文書を実際に触ったことで、当時の人と同じものを見ているというワクワク感が味わえて、楽しく昔のことを学ぶことができました。

6 博物館の職員が授業に参加したことについて、どのように感じましたか。感想を自由に書いてください。

(抜粋)

やはり自分たちだけでは手も足もでないところが多々あったので、ヒントをだしていただいたり、詳しく解説していただいたりしたので、よりスムーズに読み進めていくことができました。教科書には載っていないことも教えていただいたので満足度が高い授業になったと思いました。

実際の職員の方々が参加していただいたおかげでヒントをいただいたり、考える際のポイントを教えていただいたので読み解くことができた。このようなスタイルで行うのがとてもよいと思う。

プロからの説明を受けて深い知見を得られました。班員と協働して活動し、様々な視点から柔軟な、新鮮な見方ができました。考古学者や学芸員への進路の扉を開ける人が増えると思います。

職員の方は古文書だけでなく、その背景にも詳しく、古文書だけでは分からないことまで教えてくださった所がとても良かったです。

古文書を読みとる時にヒントを出していただいたり、貨幣の説明をしていただいたり、とても助かりました。

分からないことを質問すると丁寧に解説をしてくださったので、浮かんだ疑問が聞きやすく、知らなかったことを多く知ることができました。

7 今回の授業で「驚いたこと」「発見したこと」はありますか。自由に書いてください。

(抜粋)

教科書には「貧しい」「苦しそう」といったことについてクローズアップされていたので、そういうイメージしかなかったが、趣味で絵を書くことができたり、酒やおかしなども食べることができていて驚きました。
江戸時代の農民は厳しい制度があり、貧しい印象だったが、古文書から、農民は思ったよりも自由であったことに驚いた。
色々な物を買っていることが分かり、あまりお金がなく貧しいと思っていたので、意外とお金を持っていたことに驚いた。
お酒など、娯楽で使う物などがたくさん書いてあったこと。
普段の授業では、詳しく分からないところが、実物を見ることで紙の質、貨幣の重さなど、より一層理解が深まったと思います。
貨幣の大きさと重さがバラバラで、これを使っていたと思うと不思議な気がしてきました。また、全部文字が書かれていて、技術に驚きました。
授業前の予想通り、酒の流通が多かったことに驚きました。また、一つの帳簿に複数の筆跡があったことも驚きました。
違う藩のお札を使っていたことにも驚いたけど、それを記録として残しているのも驚きだった。
古文書にはびっしりと細かく書いてあったことに驚きでした。日付、値段、品物など書いてあって、家計簿みたいだなと思いました。
今でも使われる薬や食料が江戸時代に使われていたことを知ることができたため、親近感がわいた。

表1 歴史分野授業パッケージ作成計画

日程	内容	備考
2023年5月	スーパーティーチャー（ST）への協力依頼	
6月	テーマの検討	STからの助言・指導
7月	テーマの確定	STからの助言・指導
8月	指導案・授業プリント作成開始 資料の選定	STからの助言・指導
11月	授業パッケージ内容の確認 実践授業	ST及び博物館職員
12月	授業検証及び内容の修正 授業パッケージ内容の確定	STからの助言・指導
2024年3月	授業パッケージ完成 県内高等学校への周知	チラシ・ホームページ等

表 2 授業パッケージに使用する実物資料候補(貨幣)

使用貨幣	作成年月日	備考
寛永通宝一文銭	[江戸時代]	班に各1個提示
寛永通宝四文銭	[明和年間]	
天保通宝	[天保年間]	
豆板銀	江戸後期	
寛永通宝一文鉄銭	[元文年間]	収蔵個数が少ないため、全体で回覧
南鐐一分銀	江戸時代初期	
安政一分銀	[安政年間]	
銭差	[江戸時代]	

※使用貨幣の種類と数は変更の可能性あり

表 3 授業パッケージに使用する実物資料候補(古文書)

コレクション名	資料名称	作成年月日
高森町瀬井家資料	絵具仕入并ニ銭受取附	弘化2年11月
	年々大福得銭帳	嘉永7年8月
	大福諸銭出入帳	嘉永6年
	諸上納諸運上諸出銀其外貸方諸買物諸遣銭之覚	嘉永7年8月
	諸上納諸運上諸出銀貸方諸買物遣銭覚	安政3年1月

※使用古文書の種類と数は変更の可能性あり

表 4 実践授業で使ったパッケージ内容

	項目	内容	備考
1	実物資料(古文書)	表2参照	博物館ネットワークセンター所蔵
2	実物資料(貨幣)	表3参照	博物館ネットワークセンター所蔵
3	指導案	図2参照	奥田氏作成、提供
4	授業プリント	図3参照	奥田氏作成、提供
5	単位及びくずし字表	表: 度量衡の単位表 裏: 古文書に頻出する単位や日付等のくずし字の画像を表にしたもの	・博物館ネットワークセンター作成 ・授業者、生徒に配付 ・生徒はこの表を参考に古文書に記載された品目と金額を読みとる
6	品目表	古文書に頻出する品目をまとめた表	・博物館ネットワークセンター作成 ・授業者に参考資料として提供